



2006 ~ 2007 年度  
R I テーマ

# LEAD THE WAY 率先しよう

国際ロータリー会長 ウィリアム B. ボイド (国籍・ニュージーランド)

2720 地区

## 別府中央ロータリークラブ



例会日 火曜日 12時30分  
ところ トキ八別府店 7F ぼたんの間  
TEL 23-1111  
事務所 別府市西野口町1番1号 青山通りビル3F  
〒874-0931 TEL (0977) 23-9000  
FAX (0977) 23-9019  
http://www.beppu4rc.jp/chuo/  
E-mail:info@beppu4rc.jp

理事 鳴海淳郎	理事 後藤 隆	役員 会 長 上妻 浩	S A A 木村きぬ系
" 村津忠久	" 薬真寺章三	副会長 森 宗明	直前会長 平野英壽
" 溝部 仁		幹 事 近藤賢司	
" 梅津ヤヨイ		会 計 上妻 浩	

VOL . 19 - 20  
2006 年 11 月 28 日

## 第 845 回 例 会

会報委員長 津末美代子

点 鐘 12 : 30

体 操 自律神経強化体操

R S 四つのテスト

唱 歌 七つの子

B . G . M 「極上のクラシック・バッハ」より  
プレリュード  
G線上のアリア  
主よ、人の望みよ喜びよ

### 出席報告

副委員長 後藤 孝弘

本 日 の 出 席	会 員 総 数	25 名
	出 席 者	18 名
	事前メイクアップ	3 名
	理 事 会 承 認	0 名
	出 席 免 除	2 名
出 席	欠 席 数	3 名
	出 席 率	78.26 %
前 々 回 の 訂 正	出 席 率	66.67 %
	事後メイクアップ	1 名
	理 事 会 承 認	0 名
	出 席 免 除	1 名
11/14	修 正 出 席 率	100 %

連 続 9 回

通 算 722 回 100 %

### 会長の時間

会長 上妻 浩

さて、一昨日「歴代会長・幹事会」をトキ八別府店マーガレットに於いて開催しました。歴代会長、幹事 13 名のうち、8 名の出席で次年度の理事・役員を選考しました。来月の年次総会までにその方達にお願いし、承諾して頂きたいと思ひます。

また、先週の例会後に、溝部会員のお見舞いに幹事と 2 人で行って来ました。いつもの溝部会員と変わらず、元気そうで安心しました。一日でも早く退院できるように願っています。

### ・メイクアップ

事前 衛藤、小川、大島 (別府)

事後 桜田 (別府)

欠席 薬真寺、高田

### 幹事報告

幹事 近藤 賢司

- ロータリー財団月間 -

#### 1. 本日の卓話

『京セラに学ぶこと』 河村貴雄会員

#### 2. 第 2 回臨時理事・役員会報告

(平成18年11月19日(火) 13:40 ~

於: トキ八別府店例会場 7 名)



**審議事項**

- 1) 出席免除適用の件。 \*承認
  - ・溝部 仁会員 ( 11月16日より入院されているため診断書は後日 )
  - 期 日 平成18年11月21日 ( 火 ) ~
  - 理 由 病氣入院の為
3. 喪中につき、年末年始のご挨拶はご遠慮させて頂きます。
  - ・上妻 浩会員 (ご母堂様)
  - ・亀井 孝会員 (ご尊父様)
4. 国際ロータリー日本事務局より、ロータリー財団管理委員会に代わり村津忠久会員へ「マルチプル・ポール・ハリス・フェロー」として、ピンが届いております。本日、ご披露しお渡し致します。
5. 11月26日 ( 日 ) 19:00 ~ トキ八別府店・マーガレットに於いて「歴代会長・幹事会」を開催致しました。
  - 出席者：鳴海淳郎、村津忠久、梅津ヤヨイ、
  - 桜田健治、後藤 隆、森 宗明、
  - 上妻 浩、近藤賢司 各会員
6. 11月27日 ( 月 ) 12:00 ~ ホテル白菊・ボードルームに於いて「第6回別府市内4RC会長・幹事会」が開催され、上妻 浩会長、近藤賢司幹事が出席致しました。
7. お祝い
  - 会員誕生日 後藤孝弘会員 ( 11月29日 )
  - 記念品をお渡し致します。
8. 例会変更のお知らせ
  - 日出RC 12月5日 ( 火 ) の例会は、家族旅行例会の為 12月3日 ( 日 ) に日時・場所変更
  - 豊後高田RC 12月12日 ( 火 ) の例会は、家族忘年会の為 同日18:30 ~ 四季割烹「向日葵」に時間・場所変更
  - 日出RC 12月12日 ( 火 ) の例会は、年次総会・忘年会の為 同日19:00 ~ 幸喜屋に場所変更

- 大分RC 12月12日 ( 火 ) の例会は、夜間例会の為 同日18:30 ~ トキ八会館4Fに時間変更
- 別府北RC 12月13日 ( 水 ) の例会は、年次総会・忘年会の為 同日18:00 ~ ホテル望海に時間・場所変更
- 大分南RC 12月15日 ( 金 ) の例会は、クリスマス家族会の為 同日18:30 ~ ホテルザーズに時間・場所変更

9. 次週の予定 ( \*原稿をお願い致します。)

- 『会員卓話』 桜田 健治会員
- 『会員コラム』 梅津ヤヨイ会員

10. 本日の回覧

- 「忘年会」( 12月19日例会 ) 出・欠席
- 「国際ロータリー 2004年国際大会(関西)記録集：DVD & CD-ROM」
- 前岡志郎パストガバナーより寄贈
- ロータリー文庫より「ロータリー・モザイク」ハロルドT.トーマス著 希望購入
- 身体障害者小規模作業所ゆけむり「しめ縄」希望購入
- 中津中央RC 週報

11. 本日の配布

- 週報844号
- 「わたしはロータリーを信奉する」
- 鳴海淳郎R情報委員長より
- 「盲導犬チャリティーバザーのお願い」
- 別府RCより

**スマイルボックス 委員長 吉富 今男**

別府ロータリークラブ

- 社会奉仕委員長 尾林邦生
- 盲導犬チャリティーバザー御協力をお願いしてスマイルします。
- 上妻会員
- 河村会員、本日の卓話よろしく申し上げます。
- 近藤会員
- 今日、別府RCより盲導犬のお願いがありました。皆様よろしく申し上げます。
- 私も夜の北浜で家に帰る道を忘れることがタピタビあるので、私にもお願いできないものでしょうか？



## 鳴海会員

去る11月24日、岡山で開催されたメジャー  
ドナー午餐会に家内と2人で出席して来ました。

5回目の出席でしたが、今回はポイド会長、  
ジアイ財団管理委員長との個別写真をとって  
いただき、大変いい記念になりました。

また、久しぶりに板橋、南園、両元 R I 理事、  
重田 R I 理事等と旧交を温めることが出来たほ  
か、今回は同じテーブルで隣の片岡暎子 R I 日  
本事務局財団室長と色々話をすることができ、  
日頃文献検索などで中々得られない、生の話を  
きくことができ、願ってもない機会でした。

また、午餐会の前日に日本三名園の一つの後  
楽園を見学することができ、年寄り扱いにされ  
て入園料が無料になった上、とてもいいボラン  
ティアの方に案内していただき、家内ともども  
約2時間の大変意義深い1日でした。

いずれ詳しくお話する機会もあろうかと思いま  
すが、とりあえずスマイルさせていただきます。

## 津村会員

久しぶりのような秋晴れの空です。

来週からは早や12月。「第九」の本番を筆頭  
に色々目白押しの仕事が続きます。足腰の無事  
を祈念してスマイル。

## 河村会員

先日、妻と京都へ行ってきました。

みごとに紅葉していた永観堂、南禅寺を堪能  
してきました。久しぶりにリフレッシュし、ま  
た仕事に精を出します。

## 平野会員

何週かまたさぼってしまいました。あんなに  
まじめに出席していたのに。一昨日、宮崎ヘ  
ゴルフの女子プロの試合を見にいってありま  
したので会長、幹事会に出席できずに申し訳あり  
ませんでした。

愛ちゃんもさくらちゃんもかわいい。しのぶ  
ちゃんはちょっとかわいそうでした。今日は河  
村先生卓話たのしみにしています。

## 後藤(隆)会員

孝弘さん、お誕生日おめでとうございます。

青春まだまだ中、「ソレッ」

## 後藤(孝)会員

誕生日のお祝いありがとうございます。

55才頑張って生きてゆきます。

## 高宮会員

寒くなりました。風邪を「ひかないように」  
お互い気を付けましょう。

## 吉富会員

久しぶりの例会です。

本日の河村会員の卓話楽しみです。

## 卓 話

河村 貴雄

## 『京セラに学ぶこと』

稲盛さんの盛和塾のお話を少し紹介したいと思  
うのですが、これはもう大分前のことになります。  
スペインのバルセロナオリンピックの時に、京  
セラの山下佐知子選手が、女子マラソンのオリ  
ンピック候補に選ばれました。

稲森さんは密かにメダルを取れる選手を期待し  
ていたのです。なぜなら、その前年の世界選手権  
で、山下佐知子選手は銀メダルを獲得している。

そしてオリンピックの年も、アメリカ合衆国に  
おける高地トレーニングで、当時の世界最高タイ  
ムに近い2時間26分台を記録していました。「こ  
れはいけますよ」と監督やコーチからも稲森さん  
に報告が入っていました。

稲森さんは、その山下選手がスペインのバルセ  
ロナに旅立つ時に、「どんなことがあっても、先  
頭集団にくっついていきなさい。少なくとも2番  
手か3番手には、どんなことがあってもついて  
いきなさい。」とアドバイスをして、送り出しました。

スペインのバルセロナオリンピックというの  
は、記憶にある方もいらっしゃると思いますが、  
実は有森選手が銀メダルを獲った大会です。

あの夏の暑い時に、モンジュイックの最後の心  
臓破りの丘は、過酷でペース配分が非常に難し  
いマラソンコースだったのですが、稲森さんは期  
待を膨らませてテレビ中継に見入っていました。

いよいよスタートし、5キロ地点、7キロ地点  
と進みます。ところが山下選手の順位は、なんと  
前から数えて15番目にいます。確かに20人ほ  
どの先頭集団にはいるものの、先頭からは20m  
くらいの差はあります。稲森さんが、どんなこと  
があっても、少なくとも2、3番目にしっかりとつ  
いていきなさいと言ったことから、外れている。  
結果はどうだったかということ、5位入賞だったん  
です。インタビューを受けた山下選手は、「よかつ  
たです。私は8位入賞が目標でしたから。5位入  
賞、とっても嬉しいです。ところで有森さんはど  
うでしたか？」と言いました。

そして「有森さんは銀メダルでしたよ」という  
インタビュアーの答えに、「そうですか、それは



よかった」と言って喜ばれていました。この光景は、はた目では非常にスポーツマンらしくて、爽やかなインタビューでした。

しかし稲森さんにしてみると、内心、本当にそれでよかったのだろうか。あの時先頭集団についていけなかつたのか、ついていけなかつたのか。世界最高タイムを出すだけの実力があり、あれだけ絶好調であった山下選手に、2、3番目についていくことができなかつたはずがないと思つたに違いありません。

8位入賞という目標は、目標として相応しかつたのだろうか。周りに対する発表は謙遜で8位入賞が目標と言つたのかもかもしれません。しかし、結果としてメダルに一歩届かなかつたのは、何としてもメダルを獲得するという紙一重の心の差であつたろうと思つたのです。

稲森さんはおっしゃっています。「実は企業間のレースも同じである。」と。企業間レースを42.195kmのマラソンに例えると、京セラが京都の町工場としてスタートした時に、すでに大手のセラミックメーカーは、42.195kmで言えば14・5km先を走っていました。やつとその時点で産声を上げたわけです。

その時に稲森さんは仲間に対して「全力疾走で追いかけて。自分達には、大したお金も力もない、特別なノウハウがあるわけでもない。しかし全力疾走でやっていけば、必ずの距離は縮まって行く」とおっしゃつたのだそうです。

「今に京セラをこの原町一の会社にしようよ。原町一になったら西ノ京一の会社にしようよ。次は中京区一の会社にしようよ。そして京都一の会社にしようよ。京都一になったら全国一の会社にしようよ。全国一になったら世界一の会社を目指

そうよ」と仲間はずっと言い続けてきたそうです。

何とか受注を増やしたいという一心で、客先に売り込みに行くと、大手家電メーカーは、決まって技術的に非常に難しい製品の依頼をしてきたといひます。

創業したばかりの京セラに、大手が断つたものしか発注してもらえない。発注の時点では、京セラにとっては、当然技術的に確立していませんから、製品化できない。しかしそれでも、稲森さんは「できます」と言って受けたそうです。

会社に帰って技術者達に、「うちの現在の技術では、まだとてもできないのが実態です。しかし、工夫すれば何とかできるはずだ。今から実験にとりかかろう」と言って仲間を励ましたそうです。すると決まって、仲間から「いや、それは無理ですよ」と否定的な言葉が返ってきたといひます。

それでも稲森さんは、「今の能力では難しいということを重ね承知している。しかし納期まで試行錯誤を繰り返す中で、私たちの能力というのは必ず進歩していくはずだ。できると嘘をついた注文でも、決して嘘にはしないんだという懸命な努力をすれば、何とか納期までにそれを完成させることができる」と励まし続けて、難題を解決し、製品を完成させてきました。

人間は、追い詰められてギリギリの時に火事場の馬鹿力のような、本来人間がもっている潜在能力が、突如現れてくるのです。先ほどの愚路の話ではありませんが、中途半端な思いでは、潜在能力は出てきません。ある意味では、能力を未来進行形で捉えているということが言えるんだろうと思ひます。

## 会員コラム

高宮 勝美

別府・ながさきーい、枕崎！？

「大分は東九州の玄関口」とは、よく人の口の端にのぼるフレーズである。私の会社の前には、すばらしい別府湾と東九州の玄関口「別府国際観光港」が見える。天気の良い日は遠く四国までも見渡せる。左に国東半島、右に高崎山、その先には新日鉄の煙突が……と、その中を関西汽船が汽笛をポーと鳴らしながら、まるで絵に画いたような風景だ。

歴史をひもとくと、瀬戸内の海上交通が別府の発展に果たした役割は極めて大きい。あの別府観光の父・油屋熊八翁の「山は富士、海は瀬戸内、

湯は別府」の有名なキャッチコピーも、読み替えれば関東の人も関西の人も、つまり日本中の人は瀬戸内を通して別府の温泉に遊びに来てほしいといった願いが込められているように思える。

私たち大分県民なかんずく別府市民（どうやら港のことは忘れられているように私には思えるが）は、もう一度別府発展の原点に立ち返って「港町別府」の再認識をすべき時を迎えているように思う。もう一度港町ブルースに唄われた「別府のみなと」の底力を信じて。

今回は、梅津ヤヨイ会員です。